



昨年、40回記念展も盛況のうちに終了し、また気持ちも新たなスタートとなる2014年。50回記念展に向けて、我々は何を描き、求めて行くべきか。その行為の足跡が青枢の歴史となり未来へ繋がって行く原動力になってゆくものと信じます。

価値観や信念が大きく揺らいでいる時代だからこそ、励まし合い、切磋琢磨出来る団体展の利点を大いに生かそうではありませんか。

皆さんの力作に、大いに期待いたします。

第2回目となる青枢通信は、青枢会理事・田中ゆみさんです。

青枢会の屋台骨を支える、今や青枢には不可欠な女性であり、具象から抽象まで幅の広い表現をされる作家として活躍されています。今回は私（米谷）から田中さんへ、制作のルーツや活動内容までのインタビューをさせていただいた内容と、今までの作品の一部を紹介する事で、田中さんの創作を理解する一助になればと思います。

昨年、京王プラザロビーギャラリーでの6回目の個展にお邪魔してきました。

京王プラザでの個展は2004年からですので、かなりのペースで個展を開催されています。あの、広い壁面を作品で埋めるのは、相当な数の作品が必要で、なかなか真似の出来ない事ですね。

もともと、中学時代にお寺の住職さんから書道を指導されたことから始まり、俳画・水墨画へと興味が広がり、海外の美術館に足を運ぶなかでピカソ・カンディンスキー・パウルクレー等の作品との感動的な出逢いが大きく影響したと語られる田中さん。なるほど、言われてみれば表現のスタイルはクレーやカンディンスキーを彷彿とさせるものがあります。



日本画の先生にも師事したりしながら、試行錯誤の制作を続けられ、時には今までの作風で支持を得ていた友人から「抽象はいらない」と厳しい拒絶をされた事もあったそうですが、志を曲げずに制作していたおり、此木先生からの誘いで青枢会で発表されるようになったという経緯をお聞きしました。

青枢会は作風が自由な会ですので、田中さんにとっては制作し易い環境と大きな作品を発表出来る最適な場だったのかなと思います。その後の活躍は、皆さんもよくご存知の通りですが、改めて、会の良さを感じた次第です。（少々、手前味噌なまとめ方ではありますが…笑）



作品発表と同時に、お仕事としても NHK 文化センター教室の講師や、はがき絵などの著作も数多く出版されている田中さん。日本扇面芸術協会や日本ガラス絵作家協会でも活躍されて、まさにこれからが円熟の域での制作を見せていただけたと思います。個展での作品を掲載しますが、ご覧のように抽象具象のいずれも素晴らしく、違う表現である事を感じさせない一貫性がありました。これは力量がないと、なかなか出来ないことだと感服した次第です。まだこれからが長いと語られていらっしゃいますので、ますます今後の展開が楽しみです。



和紙のマチエールを生かして様々な技法を取り混ぜている事が自然に馴染んでいる様が素晴らしい作品達

写真はすべて京王プラザホテル個展より



編 集 後 記

2回目となる青枢通信、まだ慣れない作業で試行錯誤ですが、続けていく事で記事内容も向上していくと思います、よろしくお付き合い下さい。記事を書く事での発見もあり、私自身の勉強にもなる気がしています。

最後になりますが、去年大賞を受賞された戸谷 磊（ライ）さんの訃報には本当に驚きました。詳しい事はよく分らないのですが、素晴らしい情熱あふれる作品で大賞となり、今後の作品に多いに期待していた矢先の出来事だけに、大変残念で、青枢会にとっても大きな穴が開いてしまったような気がします。

心より御冥福をお祈りいたします。

今後は、皆さんの意欲ある熱い作品で、戸谷さんの分まで頑張って、展覧会を盛り上げていきましょう。

米谷